南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

（急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告）

第 44 週　　2026 年 10 月 26 日　　～　　11 月 1 日

今週のコメント

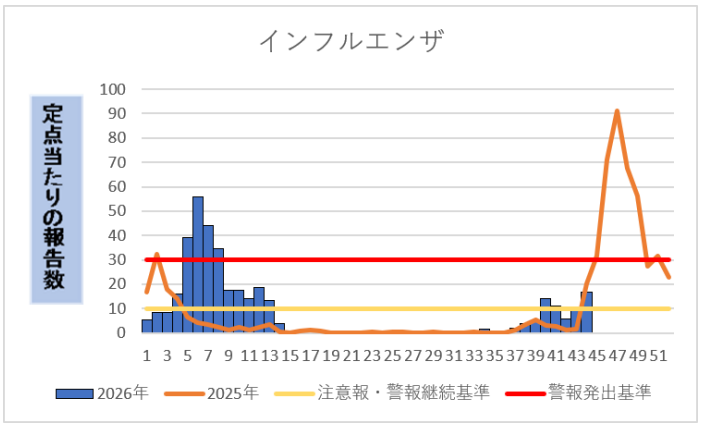
南丹保健所管内では、

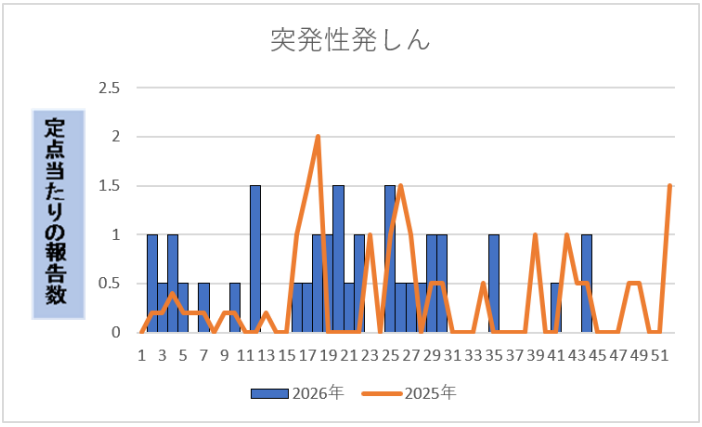
インフルエンザが**注意報レベル**継続中です。

2026 年第 44 週の報告です。

〇インフルエンザの定点あたりの報告数は、南丹 16.75（前週 10）、京都府 8.21（前週 9.83）となっています。
〇突発性発しんの定点あたりの報告数は、南丹 1（前週 0）、京都府 0.26（前週 0.08）となっています。
〇A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 0.5（前週 2）、京都府 1.1（前週 1.03）となっています。
〇手足口病の定点あたりの報告数は、南丹 0.5（前週 1.5）、京都府 0.67（前週 0.44）となっています。

今週のグラフ　（下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています）





1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

南丹保健所管内でインフルエンザ注意報が継続中です！

京都府全体でインフルエンザの報告数が増加しており、南丹管内でも注意報レベルが続いています。昨年はこの時期から流行が拡大したため、今後さらなる増加が懸念されます。

インフルエンザのワクチン接種を予定している場合は、なるべく早い時期の接種を推奨します。特に定期接種の対象となっている 65 歳以上の方は重症化しやすいこともあり、速やかな接種の検討をお願いします。

なお、2 歳以上 19 歳未満の方には、経鼻弱毒性生ワクチンの接種が認可されています。このワクチンは、弱毒化したウイルスを鼻粘膜に噴霧することで免疫を誘導するものです。ただし、持病のある場合など、一部の方には従来の不活化ワクチン（注射）が推奨される場合がありますので、かかりつけ小児科等にご相談ください。

また、風邪様症状（咳、鼻みず・鼻づまり、のどの痛み等）を呈する感染症の総称である急性呼吸器感染症（ARI）の報告数もかなり増加しています。流水・石鹸による手洗いやアルコールなどによる手指の消毒、マスクの着用などによる咳エチケットを心がけてください。室内は適度な湿度（50～60%）を保ちつつ、こまめに換気もしましょう。体調不良を自覚した場合は、なるべく人混みへの外出は避け、登校・出勤も可能な範囲で控えましょう。

京都府の感染症情報については、こちら（京都府感染症情報センター）をご確認ください。

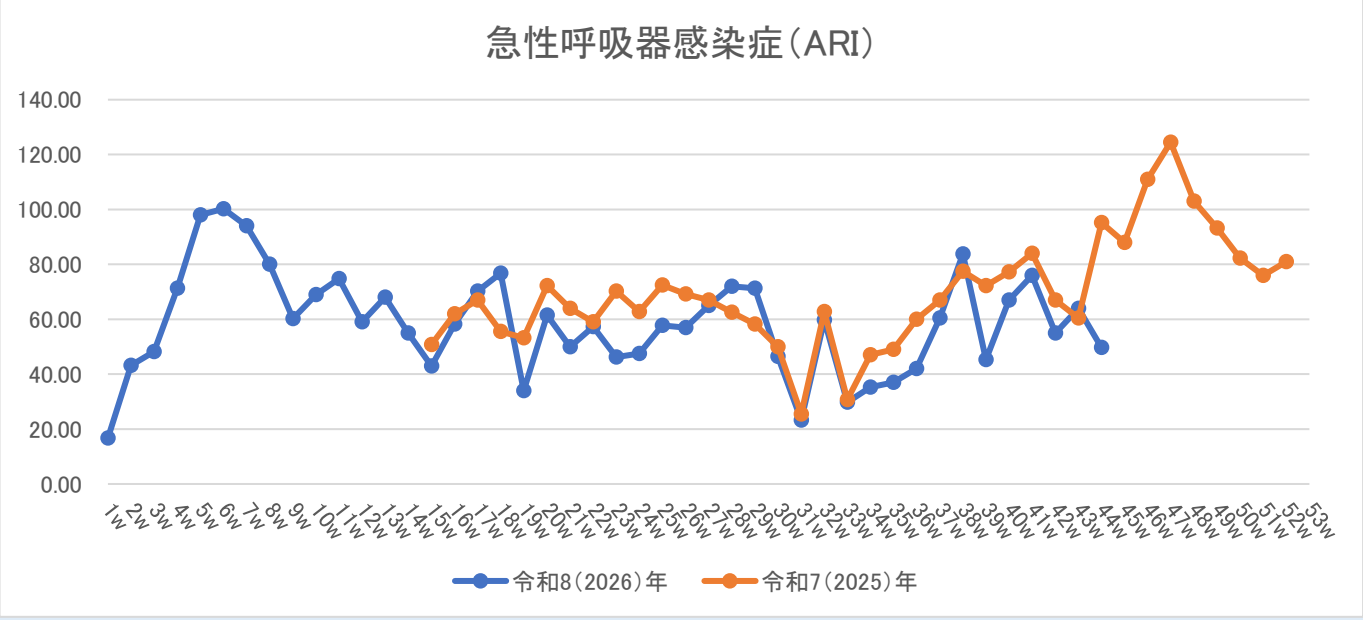
各定点把握疾患　発生状況（南丹管内）

	警報レベル		注意報	R8.44w		前週定点（参考）
	開始	終息		定点当たり報告数	前週比	
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	30	10	10（流行1）	16.75	↗	10.00
新型コロナウイルス感染症				0.25	↘	0.75
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.00	→	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		0.50	↘	2.00
感染性胃腸炎	20	12		0.00	↘	0.50
水痘	2	1	1	0.00	→	0.00
手足口病	5	2		0.50	↘	1.50
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				1.00	↗	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.50	→	0.50
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症（ARI）について

急性呼吸器感染症（ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RS ウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 44 週報告数は 199 件（定点当たりの報告数 49.75）でした。 京都府の情報はこちら



最新情報は下記のリンク先でご確認ください（関連リンク）

・京都府感染症情報センター

更新時期：（原則）毎週木曜日 14 時　前週分の状況を更新

・感染症の情報（国立感染症研究所）